



TITLE:

「東京市京橋區月島に於ける實地調査報告」を読む

AUTHOR(S):

汐見, 三郎

CITATION:

汐見, 三郎. 「東京市京橋區月島に於ける實地調査報告」を読む. 經濟論叢 1922, 14(4): 754-754

ISSUE DATE:

1922-04-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127885>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷四十第

行發日一月四年一十正大

論叢

二重稅論

法學博士 小川郷太郎

我が國民所得の地方別研究

法學士 汐見三郎

マルクス氏餘剩價值説の評論

法學博士 田島錦治

小作制と小作法

法學博士 河田嗣郎

時論

華府會議に於ける支那關稅問題

法學博士 末廣重雄

我邦の營業稅を論ず

法學博士 神戸正雄

勞働保險に關する一考察

法學博士 山本美越乃

說苑

地學觀社會學説に就きて

法學博士 財部靜治

雜錄

獨逸の同盟罷業保險

經濟學士 岡崎文規

安倍^{法學士譯}『唯物史觀と餘剩價值』

法學士 水谷長三郎

竹内法學士譯『富國論』

法學博士 河上肇

「東京市京橋區實地調查報告」を讀む 月島に於ける

汐見 三郎

内務省衛生局は、最近「東京市京橋區月島に於ける實地調查報告」の第一輯を公にした、兩三年来學界の渴望してゐた月島研究は、かくして我等の手に入つたのである。本報告一冊附錄二冊よりなる七八頁の此大冊は、實に我國に於ける此種調査物中にありて、始めて見るの勞作である。

抑々月島研究なるものが行はるゝに至つたのは、實は保健衛生調査會第七部に於ける大正七年十月二十二日の決議に基くのである。委員高野岩三郎博士は、都市衛生狀態實地調査の第一着手として熟練職上の實地調査を行ふの必要を感じ、東京市に於ける熟練職工の居住地月島を擇びて、同地の衛生狀態の標本調査を試みられたのである。月島研究は其產物である。

報告は分れて、第一、月島及附近圖、第二、月島寫眞十一葉第三、報告本文、第四、附錄となつてゐる。調査本文は更に四編に分れ、第一編總説は高野博士自ら執筆せられ、第二編月島と其の勞働者生活は權田保之助氏、第三編月島に於ける勞働者の

衛生狀態は星野鐵男氏、第四編月島の勞働事情は山名義鶴氏の分擔にかゝる。附錄の第一冊は全部統計表である、而してA表百六表は本文第二編を補ひ、B表四十九表は本報告第三編の基礎となるものである。附錄の第二冊には、月島の社會地圖二十七葉、寫眞九十枚を收めてゐる。

大體に於て、本調査は本來の目的たる都市衛生狀態の標本調査に止まらず、更に月島の社會狀態經濟狀態に關する詳細なる研究を含んでゐる。殊に權田氏の擔當せらるゝ第二編の如き、二百三十頁の長きにわたり、流麗なる筆を以て月島の社會狀態を遺憾なく寫したものである。衛生狀態と限定し乍ら醫學の範圍外に逸脱した事は一見適當な欠く様であるが、更に考ふるに、此事あるにより、益々此研究の眞價を高めてゐると云ふ事が出来る。

本調査は月島研究の第一輯にして、續刊第二輯を以て完結する豫定である、而して擔任者高野博士の言によれば、寧ろ主力を第二輯以下に注がれた様である。故に、今は單に第一輯の大體を紹介するに止め、内容にわたる詳細の批評に至つては、第二輯の公刊を待つて之を行ひたいのである。只本研究が我國に於て極めて貴重なるものたる事は、責任を以て斷言して置く。

此種の事業は、兎角中絶し易いものである。然るに大正七年より大正九年に至る滿二年間、捷ます倦まず質實なる此研究に没頭せられた事は、實に關係者諸氏の立派なる功勞と云はればならぬ。余は高野博士其他關係者に感謝すると共に、第二輯の一日も早く公刊せられん事を望むのである。(一一、三二七)